

企画意図

高齢者被害が増加し続けています。被害の回復が困難なケースが増えており、被害防止がますます重要になっています。3・11の東日本大震災をネタにする「押し買い」や「無料で耐震検査」「水質検査」など、その時々話題になった出来事や関心事を巧みに利用し騙す、悪質な業者が後を絶ちません。又、オレオレ詐欺や儲け話を持ちかけ騙す手口も日々進化しています。この作品では悪質商法の被害にあわないためには悪質な業者（敵）を知ること。そして、ご近所や周囲の人たちの交流を密にすることの大事さを描きます。

内容

俳優の阿藤快さんが世話焼きで面倒見のいいお隣さんとして登場し、ご近所のお年寄りを悪質業者から守る役を演じます。

若い男が阿藤さんの隣に住むお年寄りを訪問。男は震災で貴金属の値上がりに乗じた押し買い業者。被災者支援という言葉に心を動かされたお年寄りが、高価な指輪をタダ同然の値段で売ろうとした時、回覧板を持って入って来たのが阿藤さん。指輪の価格の低さに疑問を抱き、押し買い業者に問い詰めると……。

悪質な業者はお年寄りに効果の疑わしい商品や不必要な商品などを売りつけます。中には被害者が「だまされた」という自覚を持たないほど巧妙なケースもあります。お年寄りの「健康」「お金」「孤独」という三大不安につけ込んだものが多いのも特徴です。

阿藤さんがミカンのお裾分け持ってお隣のお年寄りを訪ねると、今まさにオレオレ詐欺の餌食にならんとするところ。警察を名乗る代理人にお金を渡すように指示する電話の男に阿藤さん、オレオレ詐欺の対処法を駆使して対応すると……。

お年寄りがたくさんの悪質商法に一人で対処するには荷が重過ぎます。そんな時、頼りになるのはご近所や周りの人たちの目。「お隣のお年寄りは普段と変わりはないか」「不審な人が出入りしてないか」、家族をはじめお隣さんやヘルパーさんなど周りの人たちの見守りや声かけが、悪質商法を見抜き、撃退する力となります。



主 演… 阿藤 快

プロデューサー… 鎌田 幸人 撮影… 松丸 武彦

脚本・監督… 佐々木利男

監 修… 東京経済大学 現代法学部教授
弁護士 村 千鶴子

制作協力… 吉田映像工房

企画・制作… 東映株式会社 教育映像部